

山鹿市から菊池市に向う国道三三五線から鹿本郷生線に入り鹿本町を北上すると、菊鹿茶や全国有数の生産量を誇る粟などで有名な鹿本郡菊鹿町には入りませぬ。この町は、かつて菊鹿村（昭和三十年の町村合併施行により、内田村、六郷村、城北村の三カ村が合併して発足したもの）と称していましたが、町政施行によって昭和四十年十月一日菊鹿町となったものです。

その後、熊本県でも北端に位置する町として順調に発展しましたが、昭和四十六年には国から山村開発事業の指定を受けて、豊かな町作りが進められているところ

またその一環として、あるいは過疎対策のために、当町大字池永地区に「菊鹿町開発センター」と「老人福祉センター」が併設され総合センターの機能を發揮しています。現在各種団体などの研修の場として、あるいは憩の場として利用されています。

これらは町の内外を問わず、その存在価値には大なるものがあるようです。

さらに昭和四十七年には国から自然休養村の指定を受けましたが、現在可能な地帯の開発と自然保護との調和を保つてより豊かな環境を提供することに努力が続けられています。

今日、観光農業が叫ばれております

### 特別天然記念物

#### アイラトビカズラの里

名実ともに県を代表する菊鹿茶産地も夢ではありません。

また、清流の冷水を利用した淡水魚「ます」やまぼろしの魚「やまめ」の養殖も順調に進み、「やまめ」の方は、非常に難しいといわれる養殖ふ化にも成功し、現在合わせて二十万匹の生産で夏の風物として観光釣堀が非常に賑わっています。

菊鹿町を有名にしているものとして忘れてならないものが、同町相良にある特別天然記念物の「相良トビカズラ」でしょう。

「相良トビカズラ」を觀賞してから数百メートル程北にある相良寺を訪れると、ここは森閑としていて心を和ませてくれます。

三月十五日が春季大祭ですが、この時は県内外から参拝に訪れる人々で非常に賑います。

このお寺は天台宗比叡山延暦寺の末寺で正確には吾平山相良寺と呼ばれ、今から千数十年前第五十二代嵯峨天皇の弘仁五年に、天台宗の開祖である伝教大師によって開かれたものです。

寺内には安産、子授けの守護神として知られる相良観音（千手観音）が安置され、その表面に施された金箔から発せられる金色の光はなかなか鮮かなものです。大きな点からみても高さが一丈六尺（約四、八メートル）もあり木彫の座像としては日本一を誇っています。

このほか、相良寺には南北朝時代の作という不動明王や伊井大老家の家宝であった歓喜天、そのほか寄せ木造りの閻魔王、涅槃図など国宝級のものが残されています。

また八方岳（千五十一メートル）には四季をいわず登山する老若男女が多く、そのふところから湧き出る清水に端を発する内田川の支流には、矢谷溪谷キャンプ場（町営）があります。現在、親子キャンプ会や職場、学生グループの健康的な社交の場となっています。

一方、キャンプ場道路や登山遊歩道など、道路の舗装工事も完了し脱都会の観光客が年々増加する一方です。

このほかにも菊鹿町には観光地として隈部城跡、鷹取城跡、合瀬川温泉郷などがあります。特筆すべきこととして昨年、菊鹿町が川端康成氏の例の「伊豆の踊子」の一節にある伊豆の描写と全く同じ地形だと発言された大学の教授がおられました。

が、自然を壊さない産業として、農業構造改善事業で造成された栗園は、相良生産団地として百ヘクタールを占め全国有数の生産量を誇っています。

現在、第二次農業構造改善事業として、茶園地の育成に全力投球がなされており、町条例を改正し、役場、農協が一体となって事業推進に当る開発室が発足しています。今三十五ヘクタールの茶園造成に着手し、既に一部においては高冷地茶の植栽が始まっています。

五十二年を目標として八十ヘクタールの茶園を造成、大型製茶工場も完成させ

大豆のクヅモダマ属の一種で日本に本しかないというこの植物は、昭和十五年八月に天然記念物、同二十六年十二月には北海道の「マリモ」と共に特別天然記念物の指定を受けました。

大きいものは直径四十センチメートルもあるという黒褐色の蔓から、直接ポツンと「シモクレン」に似た花を咲かせるのが特徴で、その色は暗紫色、形は極楽鳥に似ていると言われます。

古来からめったに花を咲かせず、また開花すれば何か国家的な事象が起こったという言い伝えがあることから優曇華と呼ばれていましたが、今から四十五年程前の昭和四年五月に、三十五年ぶりに開花してからは毎年花をつけ、満開時は五月の十日前後だということ

寺内には安産、子授けの守護神として知られる相良観音（千手観音）が安置され、その表面に施された金箔から発せられる金色の光はなかなか鮮かなものです。大きな点からみても高さが一丈六尺（約四、八メートル）もあり木彫の座像としては日本一を誇っています。

このほか、相良寺には南北朝時代の作という不動明王や伊井大老家の家宝であった歓喜天、そのほか寄せ木造りの閻魔王、涅槃図など国宝級のものが残されています。

また八方岳（千五十一メートル）には四季をいわず登山する老若男女が多く、そのふところから湧き出る清水に端を発する内田川の支流には、矢谷溪谷キャンプ場（町営）があります。現在、親子キャンプ会や職場、学生グループの健康的な社交の場となっています。

一方、キャンプ場道路や登山遊歩道など、道路の舗装工事も完了し脱都会の観光客が年々増加する一方です。

このほかにも菊鹿町には観光地として隈部城跡、鷹取城跡、合瀬川温泉郷などがあります。特筆すべきこととして昨年、菊鹿町が川端康成氏の例の「伊豆の踊子」の一節にある伊豆の描写と全く同じ地形だと発言された大学の教授がおられました。



▲相良寺千手観音像



▲特別天然記念物アイラトビカズラ



▲町の入口に立つ案内図



▲福祉センター



▲鱒の養殖場



▼子授けて有名な相良寺



▼キャンパーを待つキャンプ場入口